

令和7年8月3日 小規模特認校に関する説明会 当日の質疑応答

※当日の質疑応答の内容を要約して掲載しております。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
1	ご質問	小規模特認校となっても特別支援学級は維持されるということでしたが、対象の児童がいる限り、知的学級と自情学級が維持されるという理解でよいですか。	支援が必要な児童のために、対象となる在籍児童がいる場合、知的学級、自情学級ともに継続されます。
2-1	ご質問	特別支援学級を設置して、一部の児童を分けているということに違和感があります。例えば、一部の教科では非常に高い能力を示しているが、他の教科は能力が低い場合、よくある形では劣っている部分を伸ばすようにがんばる方向で、優れている部分を伸ばすサポートは少ないように感じています。イエナプランを参考にした教育を行う中で、どのような方針で教育を提供していく考えですか。また、例えば読み書き障害があり、自分でプランを立てることや板書なども苦手な児童もいると思います。特別支援学級を勧められるケースかとも思いますが、この2校ではどのような方針とするかをお聞きしたいです。	お子様の様々な障害・特性がある中で、特別支援学級への在籍については、教育委員会が招集する教育支援委員会で判定を行います。これは小規模特認校でも他の公立学校でも同じとなります。栗原小学校、谷田部南小学校それぞれで、イエナプランを参考とした教育を実践する中で、特別支援学級のお子様には、一緒に学ぶところ・個別にサポートするところなどについて、そのお子様一人ひとりに合った形で判断していきます。原則としては、市内どの学校でも同じ教育の提供を行っていると考えています。
2-2	ご質問	各学校では特別支援の判断は行わないということでしょうか。実際に児童の様子を見ている先生方の意見も大事だと思いますが、特別支援学級の在籍について、他の公立学校と小規模特認校の2校では違いがないということですか。	教育支援委員会で判定を行うということは、小規模特認校でも他の公立学校でも同じです。各学校での対応については、例えば、自情学級に在籍するお子様は授業数の半分程度を自情学級で過ごし、もう半分は通常学級との交流及び共同学習での活動となります。先ほどの例で、自分でプランを立てることが難しいということであれば、その部分に手厚いサポートを行う、といった形で、自情学級の担任と交流学級の担任で、一人ひとりに応じてどういった支援が必要になるかを考えていくこととなります。特別支援学級の考え方について、2校と他の学校で特に大きな違いはなく、同じ方針で進めていきたいと考えています。
3	ご質問	評価について、成績表などをどのようにしていくのかなど、他の学校との違いがあるのかお聞きしたいです。	評価については原則、他の学校と同じとなります。ただし、通知表の所見等の欄で、特徴的な取り組みにおいてどのような頑張りがあったかということは、手厚くフィードバックできると考えています。
4-1	ご質問	現在は県外に住んでいますが、申し込み時点につくば市に住んでいない場合はどうなりますか。	現在市外にお住まいで年度内に転入予定の方の手続きにつきましては、転入予定者用のフォームを11月末の申請受付期間に用意します。そちらで申し込んでいただければ、市内にお住まいの方と同じように受付させていただきます。定員を超える場合も市内の方と同じ基準で抽選となります。
4-2	ご質問	谷田部南小学校は各学年10名ほど増えることになるかと思いますが、先生も増えるのでしょうか。	教員の配置につきましては、県からの教員配置が原則となりますが、初めての取り組みですので、市で採用する教員等も配置するかどうか、十分検討させていただきます。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
5	ご質問	小規模特認校を今後も増やしていく考えはあるでしょうか。すでに小規模の学校もいくつかあると思いますが、現在中規模の栗原小学校が小規模特認校となる理由をお聞かせください。	今後も増やしていくかについては、この2校の状況なども見ながら検討していきたいと考えています。 栗原小学校が小規模特認校となる理由については、令和8年度に新設校のさくら小学校が開校するに当たって、栗原小学校が小規模化するためです。
6-1	ご質問	定員17名ということですが、来年度の募集はどの程度になりますか。	現在在籍の方が何人残るかということが分かっていませんので、現時点で募集人数をお伝えすることはできない状況です。
6-2	ご質問	定員を超える場合は抽選とのことですが、完全無作為の抽選ということでしょうか。	現在在籍の方などは考慮されますが、それ以外の方は完全無作為の抽選となります。
6-3	ご質問	現在谷田部南小学校は各学年8名くらいで、来年度は児童数がおおむね倍になりますが、おそらく教員数としてはそこまで変わらないと思います。その時に、どのようにして同じような学びを担保していきますか。	前提として通常の学級の定員は35名で、36名になれば18名のクラスが2つできます。本来であれば、30名程度のクラスを一人の先生が受け持つということが全国的にも基本となっています。現状が8名程度なので倍になるという御心配もよくわかるのですが、こちらの設定としましては、2クラスとなる際の最小人数である18名よりも少ない人数で手厚い支援をするという考えです。各学年が17名程度になっても一定の教育水準を担保できると考えています。
6-4	ご意見	先進的な取り組みで興味を持っています。児童数が2倍になるということで、TTなど必要になると考えていますので、開校までに検討いただきたいと思います。	—
7-1	ご質問	特色ある取り組みではあると思いますが、小規模でなくても、学習プランや探究などはほかの学校でもできるのではないのでしょうか。	市内のすべての学校で、イエナプランの理念は共有しながら、その方向で教育を進めています。少人数であれば、さらに教員が一人ひとりへのサポートがしやすく、手厚く行えると考えています。それぞれの学校の規模感などに応じて取り組んでいるところです。
7-2	ご質問	いろいろな成果が出ていると思いますが、学校が行ったことではなく、子どもたちがどう変わったかといったような成果があれば教えてください。	サークル対話やマイプランを作るといった、自律的な活動を進めていく中で、子どもたちがいきいきと活動に取り組んでいます。自律的に、色々なことを自分から発信して、考えて、作り上げていくという、受け身ではない取り組みが多くできていることが成果だと考えています。
7-3	ご質問	栗原小学校への周知として、現在栗原小学校に在籍の児童は、そのまま栗原小学校に在籍できるという内容がありましたが、その方針に変更はないですか。その場合は、定員に関係なく在籍できるということでしょうか。	令和7年度現在に栗原小学校及び谷田部南小学校に在籍している方で、令和8年度以降も在籍を希望する方については、在籍を認める方針です。栗原小学校は、残る希望の方がどのくらいいるかがまだわからない状況ですが、小規模特認校開始後の数年間は定員の17名を超える可能性もあると考えています。今後、現在在籍している児童が卒業していく中で、数年かけて定員17名程度で落ち着いてくと想定しています。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
8-1	ご質問	素敵な教育方針だと思いましたが、これが中学校に入るとオーソドックスな教育になってしまうように感じました。小学校は少人数で個性を伸ばすような教育だったのに、中学校は大人数で授業を座って聞くというスタイルになると、子どもは大丈夫なのかと不安に思いました。中学校教育との連携・接続をどのようにやっていきますか。また、中学校で小規模特認校のような特色ある公立学校を作る予定はありますか。	前提として市内小・中学校の50校すべてにおいて授業形態が大きく変わるということではなく、探究的な学習を進めています。自分が探究するための前提知識として一斉指導を行うこともありますし、自分の問いを深めるために対話やグループ活動などをとおして学んでいくこともあります。小学校と中学校で学びの質が違っているということはありませんのでご安心ください。ただし、一方で受験もありますので、一定のニーズとして点数に結び付く学力を上げてほしいという声も当然あります。そのような学力と探究的な学びを結び付けながら、お子様の力を伸ばしていくということが課題と考えていますので、その課題をクリアできるように、私たちも学校の先生達も一緒に進めていきたいと考えています。 2点目については、小規模特認校での特徴的な取り組みによる、中学校進学へのご不安からの質問かと思います。お話しした通り、中学校においても探究的な学びを進めています。また、小規模特認校の特性を中学校でも十分に把握してもらいながら、スムーズに受け入れられるようにしていきたいと考えています。特に栗原小学校・谷田部南小学校については、校学園・翠輝学園として、中学校だけでなく、学園内の小学校においても、探究的な学びをさらに深めて、イエナプランの理念を広げていきたいと考えています。
8-2	ご質問	2人子どもがおりますが、申し込みの際に、2人同時なら申請したいといったことや、1人だけ就学させたい、といったことに、どの程度対応いただけますか。	ご兄弟がいる場合、おふたりで申し込むか、おひとりだけ申し込むか等については、申請の際に選択できることとします。
9-1	ご質問	つくば市教育大綱の「幸せな人生をおくること」という最上位目標にとっても賛同しますが、この言葉はどの社会を見据えて打ち出しているかということをお聞きたいです。	教育大綱につきまちは、市長が長となり教育委員と議論をしながら作っているものです。この「幸せ」については、常々学校の先生方へ伝えていることとして、今も幸せであり、そして子供たちが活躍する未来においても幸せになるように、ということです。まずは幸せな学校づくりというのが市内50校の目標でありつつ、AIやロボットなど先進的な科学が発達したり、少子化で労働人口が減ったりしていくような中でも、しっかりと幸せに生きていける力をつけていくことが、つくば市だけでなく日本の教育の大きな柱であると考えています。教育は未来のための営みであるということを、学校へも伝えて、実践していきたいと考えているところです。
9-2	ご質問	就学の条件にある、学校の教育活動及び保護者・地域活動に協力できること、ということについて、気持ちの部分や具体的にどのような活動に協力を求めているかといったことがあれば教えてください。	現在は2校ともPTAが組織されています。保護者組織などが今後どのような形になっていくかは検討となりますが、学区内の方だけでは規模的にも負担が大きいところもありますので、ぜひ学区外の方へもご協力いただきたいというものとなります。地域活動についても同様に、学区外の方でもぜひ地域の活動へ参加・協力いただきたいと考えています。